

秋の陽だより

練馬区立光が丘秋の陽小学校

<http://www.akinohi-nerima-tky.ed.jp/>

練馬区光が丘 2-1-1

TEL 3976-6331

FAX 5383-3595

第 59 号



平成27年2月2日

薄着のすすめ

校長 関川 健

校庭の梅の花がほころび始めました。明日は節分、明後日は立春・・・と、季節は確実に春に向かって進んでいます。しかし、まだ2月。寒い日が続きます。

先々週から「冬の体力づくり」として、なわとび旬間を実施しています。中休みの全校なわとびで、私も子供たちと一緒になわとびをしました。空気が冷たい日でしたが、1分も跳んでいると身体が熱くなってきて、ウインドブレーカーを脱ぎたくなりました。全校なわとびは5分間ですから、積極的に跳び続けた子供たちは、かなりの汗をかいたはずですが、なわとびは、手軽にできるとてもよい運動です。子供たちにはチャレンジカードを使って色々な技の習得に頑張っています。なわとび旬間が終わっても、体育の体づくり運動や休み時間の中で友達と競い合ったり教え合ったりしながら取組を続けて、心肺機能や筋持久力を高め、身体の調整機能やバランス感覚を養っていきなさいと思います。

さて、子供たちを見ていて少し気になることがあります。それは、休み時間に外で遊ぶのに、ベンチコートのようにフードのついた厚手の上着やダウンジャケットを着込んでいる子供が何人もいます。さらには、エアコンの効いた教室内で授業を受ける際にも同様の格好をしている子供もいます。担任などが指導してもその場限りで、また繰り返すことも多いようです。

昔から、「子供は風の子」という言葉があります。しかし、放っておいたら厚着のままの子供たちには「風の子」になるために薄着になる働きかけをしなければ、と思います。薄着の効果は、外の気温の変化を捉える皮膚の感覚器官を働かせ、自律神経の働きを高め、自律神経がしっかり機能すれば、暑さや寒さに対して、血管の収縮、拡張がきちんとなされ、体温を一定に保ちます。運動して内分泌も盛んになり、免疫力も強くなり、病気になりにくい健康な身体になっていきます。薄着で外で元気に活動するためには体温を上げることが必要ですから、朝ご飯をしっかり食べて排便を済ませてから登校することも大切になります。

学校とご家庭が連携して子供たちの健康増進を図れますよう、ご理解とご協力をお願いいたします。

2 月 予 定

【ふれあい(いじめ防止強化)月間】

2日(月) 全校朝会 安全指導 なかよし班活動委員会(4年生委員会見学)	薬物乱用防止教室(5・6年) 馬頭琴鑑賞(2年) 本の探検ラリー(3年)
5日(木) 体育朝会 なわとび旬間終了 新1年生保護者会 1年生下校1:20 ひろばなし	16日(月) 全校朝会 クラブ(3年クラブ見学)
9日(月) 全校朝会 読書旬間開始 クラブ	18日(水) 特別時程午前授業 下校1:00 ひろばなし
10日(火) 避難訓練	19日(木) 音楽朝会
11日(水) (祝)建国記念の日	20日(金) 読書旬間終了 全校5時間授業
14日(土) 学校公開 校内書きぞめ展終了	23日(月) 全校朝会 クラブ
	26日(木) 授業公開 保護者会(4・5・6年)
	27日(金) 授業公開 保護者会(1・2・3年)

道徳授業地区公開講座



意見交換会では、本校の道徳教育についての説明をした後、小グループに分かれて道徳教育について感じていることを話し合いました。和やかに率直な意見を交わすことができました。たくさんの保護者、地域の方が参加してくださいました。

3年 社会科見学



1月23日(金)に社会科見学に行ってきました。練馬区役所、石神井公園ふるさと文化館、ベジふるセンターねりまを見学しました。練馬区の街の様子、昔の道具、運ばれてくる野菜や果物について、実際に目で見ながら、学ぶことができました。

4年 誕生学



1月27日(火)に、講師の井上昭子先生による誕生学の学習を行いました。「かけがえのない命の誕生」についてのお話をさせていただきました。子供たちの感想からは、誕生の喜びや感謝の気持ちが表れていました。保護者の皆様にもご参観いただき、感動的なひとときを過ごすことができました。

連合書きぞめ展



1月26日(月)から校内書きぞめ展が始まりました。練習の甲斐あって、どの作品も上手です。2月14日(土)の学校公開まで展示しています。各クラスの代表作品は、連合書きぞめ展に出品され、1月24日(土)、25日(日)に、区立美術館に展示されました。

読書旬間

2月9日（月）から20日（金）まで、読書旬間を行います。1年間のまとめの読書旬間と位置付けています。読書のめあて（時間、読んだページ数、冊数など）を決め、記録していきます。学校での朝読書や学級の読書時間の他に、家でも本に親しんで欲しいと願っています。ご家族でお子さんといっしょに読書を楽しんでいただけたら幸いです。読書カードには「ご家庭からの一言」という欄を設けさせていただきました。お子さんがどのような本を読んでいるか知っていただき、読書時間を共有し話し合ってくださいませよう、ご協力をお願いいたします。旬間中は、学校図書館管理員河崎裕子さんによる読み聞かせやブックトークで、本の紹介をします。図書委員会の活動では、5・6年の図書委員が低学年の教室で、読み聞かせをします。学校図書館にはおすすめの本を展示していますので、14日（土）の学校公開などの機会に、学校図書館を覗いてみませんか。（図書部）

なわとび旬間

1月22日（木）から体力向上の一環として、なわとび旬間が始まりました。中休みになると全校朝会の隊形に整列し、全員が揃ってから、なわとびを始めています。

今回から、運動委員会の児童が各クラスの前に立ち、跳び方教えています。運動委員会の児童のお手本を見て、子供たちはがんばろうという気持ちを持ち、校庭または体育館でなわとびに励んでいます。「二重とびができるようになったよ」と喜んで先生に見てもらう姿があったり、「どうしたら跳べるの?」とお兄さんお姉さんに尋ねる姿があったりと、なわとびを通じて、交流が深まってきています。また、終わった後には、「疲れたけど、楽しかった!」「〇〇が跳べるようになったよ!」と声を弾ませながら話をしにくる子もいます。2月5日（木）の体育朝会まで、全校で楽しく元気に取り組んでいきたいと思えます。

(体育的行事委員会)

ユニセフ募金

1月27日（火）に代表委員会により、ユニセフ募金を呼びかける集会を行いました。集会では、外国にいる自分たちと同じ年齢の子供が、水くみのために学校に行けなかったり、働き手として強制的に働かされたりしている現状を劇や写真の紹介で分かりやすくお知らせしました。

1月28日（水）～30日（金）の3日間に、寒い中、代表委員が児童玄関に立ち、募金を呼びかけました。「明日も持ってくるね。」「貯金してたよ。」と、たくさんの募金が集まりました。また、学校関係の方からも、「役立ててください」と募金をしていただきました。

代表委員会の児童にとって、よい経験になりました。募金は、責任をもって日本ユニセフ協会に送らせていただきます。

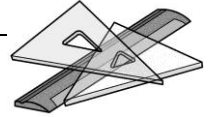
(特別活動部)





秋の陽 算数だより

～4年生の教室から～



4年生は4つのクラスに分かれて、概数の学習をしました。

およその数のことを概数といいます。日常生活の様々な場面で使われます。例えば、ニュースなどで、「今日、苗場スキー場では、およそ7千人のスキー客で賑わいました。」など、細かい数字が必要でなく、大まかな数字でよいときに使います。また、桁数の大きな国家予算や人口などにも概数で表されることが多いです。

概数は上から何桁目と表す場合、その一つ下の位で「四捨五入」をします。4以下で切り捨てる場合は0となります。5以上で上げる場合は、一つ上の位で1を足します。

こうした基本を経て、「概算」の学習を進めました。日常生活に即して考えると、概数の理解が進み、習得意欲も高まります。

買い物をしている場面で、見積もる時は概数にして計算します。例えば1000円しかないけれど、足りるかどうかが考える場合、145円を200円、290円を300円のように、見積もります。児童は、多めに見積もることで予算内に買い物ができることを学びました。

このように、日常生活の中に算数での学習を活用できる場面があることを実感させ、「生きる力」を身につけさせていきたいです。

(算数少人数指導担当)

校内研究だより

今年度の研究テーマ

「自分の言葉で表現し合える児童の育成」

～教科のねらいをふまえた言語活動の充実～

今年度、授業の中に言語活動を意図的に取り入れ、児童の表現力が高まるように研究をしてきました。授業だけでなく、日常的な言語活動を整備し、語彙力を高める活動や読書を習慣化する活動も取り入れました。全校での取り組みは、次のような物があります。

- ・声のものさし、話し方・聞き方を掲示
- ・授業中の発問や連絡帳などの聴写
- ・学芸会の劇の感想を書き、異学年と交換する
- ・朝の読書活動の充実、お話の森の方による読み聞かせ（1～4年）
- ・読書の本（おすすめの本の題名とおすすめの理由を紙に書く）

そのほかにも、それぞれの学年で日直のスピーチ、行事の作文を書く、辞典を活用するなどの活動をしています。

研究の成果として、読書活動によって語彙力が高まったとしている児童が多いことが多岐に分かりました。朝の読書習慣や読み聞かせ活動などの積み重ねで成果を上げられています。また、教師が言語活動を意識するかしないかによって児童の言語能力向上に大きく影響することもわかりました。一回の学習だけで終わらせるのではなく、何度も繰り返しながら表現する経験を積んでいくことが大切です。今後、言語活動が充実する手立てを考え、児童が自信をもって自分の言葉で表現できるよう引き続き取り組んでいきます。

(研究推進担当)